

10月18日(土)の午後、あざれあで家族機能研究所主任研究員、波田あい子さんを講師にお迎えして「女らしさ」という役割意識によって起こる女性の心の問題について、女性学、心理学の視点から考える講座を開きました。その抄録をご紹介します。

この20年間で日本の女性は「私の欲望」をはっきり意識する自我を持つようになりました。この変化は、周囲との軋轢、特に家族との軋轢を大きくし、また同時に自分自身の中でも自分に忠実であるべきか、周囲に従うべきかの葛藤を起こさせるものです。

「私の欲望」は、二つの自己実現欲求に表れ、

# 女らしさの病い

家族機能研究所 主任研究員 波田 あい子さん

一つは職業生活を通じた自己実現欲求で、二つはセクシュアリティ(性愛)における自己実現欲求です。外的・内的葛藤の中でおおくの女性たちは、従来どおりの制度の中で無理をして自分を合わせて生きることを選び、「私の欲望」を抑圧しました。しかし、自分の居場所と存在証明の危機を子どもと一体になることで切り抜けるというやり方は、さまざまな家族の問題を生むのです。

女性たちは、アル中にもうつ病にもならず、パートで少し働いてみたりボランティアをしてみたりして、危機をしのいできました。しのできたはずが、娘が摂食障害を起こす、学校へ行かなくなるなどの問題が出てきて、私の人生が間違っていたり、失敗だったかのように感じ、抑うつ状態になってしまいうことになります。母親である女性の未解決の問題は、娘に“症状”として表れるという連続性を理解することが重要です。

娘たちは、野心をすてて「女らしく」なりなさいという世間のメッセージと「なりたいたい私」の理想像とのほざまで、身動きできなくなっているのです。

また今日、家族内暴力が社会問題と認識されるようになりましたが、これも日本人の家族観念の中心であり続けた「母の自己犠牲とゆるし」、性別分業を天分と信じる「良妻賢母」のいる理想家族という神話が機能しなくなったことと大いに関係しています。

家族の質的な変化はいまや誰の目にも明らかです。「私の欲望」を自覚した女性を当たりまえとする、新しい家族モデルへと変化を余儀なくされているのです。今、家族の中で起こっているさまざまな暴力を直視し、対処を適切に講ずるといふ合意が採れること、これが、日本が新しい家族モデルに移行できるための関門になるでしょう。

# 人と自然が

# とももに生きるままち

〜男女共同参画社会づくりモデルの清水町を訪ねて〜

平成8年・9年度の2年間を「男女共同参画社会づくりモデル市町村」として、事業の実施に取り組んでいる清水町は、県東部の中心都市である沼津市・三島市の両市に接し、東西の交通要所となる位置にあります。

## 男女共同参画づくりのトライ

清水町においても、女性の社会進出が多く見られるようになり、「男女共同参画社会を実現するための事業を取り入れよう」という町民からの積極的な要望があったことから、「男女共同参画社会づくりモデル市町村事業（以下モデル市町村事業）」に立候補するきっかけとなりました。

## 足元からのスタート

まずは、モデル市町村事業の一つとして男  
女行動計画策定委員会を発足し、事業全般の  
企画と運営を行います。委員会は、18名のメ  
ンバーから成り、女性11名、男性7名で20代



質問も次々と



から60代までの幅広い年齢層で構成していま  
す。  
策定中の行動計画の趣旨である、「男女が  
対等な立場に立って職場、家庭、地域等にお  
いて、それぞれの個性や能力を発揮できる環  
境づくり」を目指して出発しました。  
それにはまず職員が女性問題を認識するこ  
とが、行動計画策定への第一歩と考え、まず、





柿田川の清流をかかえた、自然環境豊かな駿東郡清水町

清水町のまちづくりの基本目標

豊かさを実感できる生活都市 清水町基本理念

- 1 安全と安心を実感できるまちづくり
- 2 産業の活力を実感できるまちづくり
- 3 美しく質の高い生活空間を実感できるまちづくり
- 4 新しいライフスタイルを実感できるまちづくり  
(計画) 男女共同参画社会づくり
- 5 ゆとりと生きがいを実感できるまちづくり

**清水町の特徴** ・面積 8.84km<sup>2</sup> ・人口 30,134人

項目	県54町村順位
人口密度	1
生産年齢(15~64歳)人口割合	2
三世帯同居割合	54
出生率	1
結婚率	1
離婚率	5
老年(65歳以上)の人口割合	54

幹部職員が学び次に女性職員、そして男性職員という順に研修を受けました。研修では、男らしさや女らしさといった社会的・文化的に形成された男女の違いを「ジェンダー」と



活発な意見が交わされたパネルディスカッション

呼ぶことや「パートナーシップ」とは何か等、言葉の説明から始めました。お茶くみもセルフサービスに変わり、職員意識や職場の環境にも少しずつ変化が出てきたようです。

**意識の変革に向けて**

平成8年度のフォーラムでは、県の男女が共につくる推進懇話会会長の錦織淑子先生によって「男女共同参画社会をめざして」と題した基調講演の後、県立大学の沼田俊昭教授

をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。錦織先生の講演からは、「男女共同参画社会を作るためには、女性も経済的に自立し、男性も生活的に自立するところから出発し、対等なパートナーとして『パートナーシップ』を持つてやっつけていこう」「21世紀に向けて女性問題だけの学習で終わることなく、共同参画につなげていこう。そのためには、持続性とネットワークが今後の大きな課題である」ということを学び、200人を超える聴衆は身近な問題として受け止めていました。

**よりよいパートナーシップに向けて**

平成9年度は、「清水町男女共同参画に向けた社会づくり」と題した基調講演とパネルディスカッションを開催しました。当日は悪天候にもかかわらず、多くの参加があり活発な意見も交わされ、前年度より一層積極的なフォーラムになり手ごたえを感じています。

モデル市町村事業の一つとして、男性の生活上の自立を目指して「男性料理教室」を5回シリーズで開いています。料理づくりに加えて、昨年は「クリスマスケーキ作り」にもチャレンジしました。時期もちょうど12月ということ、参加者やその家族にも大変好評でした。今年の料理教室もたくさんの参加希望者がいます。

以上のほかに、この事業の一貫として行われた、啓発資料の作成やPR活動、また意識調査を通して、「役場」と「町民」のパートナーシップの必要性和重要性を再確認する大変よい機会となりました。そして、今後は「企業」も加えて三者のパートナーシップが取れるように、来年度以降の事業を展開していきたいと考えています。



# 学校と地域の パートナーシップ

地域に開かれた学校、学校に開かれた地域を目指して

静岡市の大里中学校にある大里複合施設は、中学校の複合施設では、全国で3校目、県内では初めての施設として、注目されています。ここは以前から、生涯学習施設として時代の要請を背景に、地域住民から強く公民館建設の要望があったため、中学校校舎改築に伴い中学校の敷地中に、公民館、保健センターが併設されました。コンピュータ室、音楽室、図書室が共用となっており、一般に開放されています。

## リハビリのつどい 「ふれあいのわ」

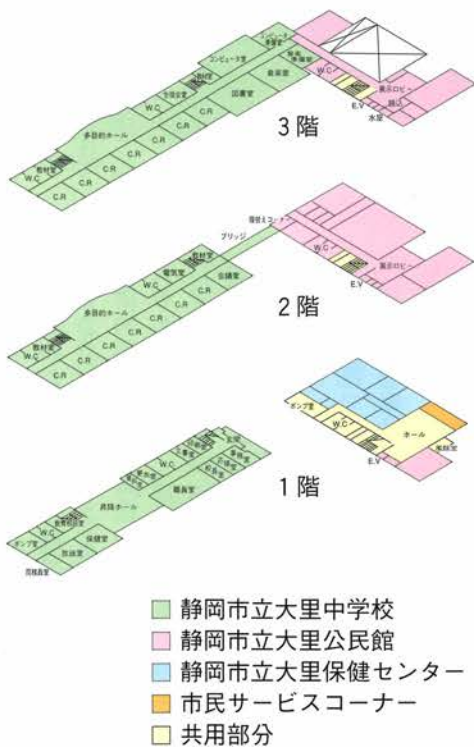
公民館と保健センターの合同事業としてリハビリのつどいがあります。これは、保健センターにおいて、月1回身体の不自由な人、高齢で虚弱な人たち（リハビリの受講生）と公民館の講座受講生とがリハビリ教室を行うものです。また、年に2回は、中学校を加え、

三者合同でリハビリ交流会、リハビリのつどい「ふれあいのわ」を開催しています。今年度も6月と11月に開催し、定着した事業となっています。リハビリ交流会は公民館のホールを使い、中学校の希望者60名程も参加し、体操・風船バレー・伝言ゲームなどを楽しみ

ながら交流を行っています。交流会に参加した中学生は、ふだん接することの少ない身体の不自由な人や高齢で虚弱な人に接し「どんなことを話せばいいかわからなかったけれど、自分から話しかけたら、喜んでくれたので嬉しかった」「リハビリの受講生のお話しがもしろかった」など、相手の気持ちがわかって良かった、楽しかったので次回も参加してみたいと言っていました。そしてこの交流会をきっかけとして、中学校の運動会にリハビリの受講生が応援に来てくれます。講座受講生や施設職員も「リハビリの受講生が楽しく参加している様子を見ると、次回の交流会開催に向けてのパワーが湧いてきます」と話していました。

### 複合施設の見取図

各階ごとに学校との専用通路があり、特に3階はドア1枚で学校と公民館を行き来することができます。







風船バレーに力が入る「ふれあいのわ」リハビリのつどい



ふだん接することの少ない高齢者たちと中学生の交流会

三者それぞれに複合施設というメリットを生かして、効果的に事業を展開していくためには、お互いに今までの枠を超えて行く必要があるとそれぞれに感じていらつしやるようです。地域に開かれた学校づくり、生徒の活動を受け入れる地域づくりを目指し、お互いが積極的に理解し、協力していけば、相乗的な効果も期待できるのではないのでしょうか。

課題です。公民館の主催事業で学校の施設を使用した場合、その事業の修了後、地域の人材を学社連携の中で継続的に活用するにはどうしたらよいかを考えていきたいと思えます。保健センター：これまで、地域に寝たきりの人をつくらぬ活動に重点をおいてきたので、これからは中学校と併設されている利点を生かし、子育てのネットワーク作りや思春期の子どもに関する問題を取り上げていきたいと思っています。

加することにより、授業だけでは得られない体験をすることができ、公民館利用者が学校行事等へ参加するなど学社連携の一つの例といえます。

### 三者の パートナーシップ

学社連携として複合施設ならではの新しい事業を行うため、三者協議会を設け、検討を重ねています。前年度合同で行われた事業は、表のとおりです。

三者のパートナーシップという点に関して、中学校・公民館・保健センターは現在の課題と未来の展望について、それぞれ次のように考えています。

中学校：中学校は義務教育で、年間の授業数が決まっているため、公民館で行う、比較的時間の余裕がある社会教育との違いを認識したうえで、地域の人材をどのように授業の中に取り入れるか、また地域の人の授業への参加方法をどのようにするかが大きな課題です。これまでは、中学校の行事で公民館の施設を利用することが多かったのですが、これからは学校の施設を一般の人により多く利用してもらえるように、学校の施設開放を公民館との連携の中で進めていきたいと思えます。また、地域とのふれあいによって生徒の思いやりの心を養っていききたいと思っています。

公民館：複合施設の共同利用の方法と合同事業の企画をどのようにしていくかが重要な

平成8年度 合同事業実績				◎は実施主体
				○は相乗り
No	事業名	公	学	保
1	ふれあいのわ リハビリのつどい	○	○	◎
2	ふれあいバザール フェスタ大里	○	○	○
3	合同合唱発表会 (合同練習含む)	○	◎	
4	講演 (道徳の時間) 地域の人材から学ぶ 勤労青少年ホーム ジャズダンス講師	○	◎	
5	異文化交流「フェスタ フィリピン」	◎	○	
6	芸術鑑賞教室「落語」	○	◎	
7	大里ファミリーカレッジ「天体観望会」	◎	○	
8	合唱コンクールの審査員	○	◎	
9	運動会で合同フォークダンス	○	◎	
10	遠足 (秋) へ参加	○	◎	
11	パソコン教室 (市情報政策課主催) 中学校のコンピューター室を使用	○	○	